



輝け!未来

柴本

しばもと・ゆうた

悠汰さん

川崎小6年 川崎区

牧之原のお茶がみんなに愛されるように 僕も努力したい

僕のおじいちゃんは、78歳で元気にお茶とお米を作っています。おじいちゃんの話によると、農家も高齢化になり、農業をやめる人が増えてきたといいます。このままでは、きれいな茶畑の風景がなくなってしまうと思うと、残念な気持ちでいっぱいです。もう一度、農業の盛んな町になるように僕も、牧之原のお茶がみんなに愛されるように努力したいです。

▼9月の第3月曜日は、「敬老の日」。昭和22年に兵庫県多可郡野間谷村（現多可町）で村主催の敬老会が初めて開かれ、村長が9月15日を村独自の祝日である「としよりの日」と提唱し、後に兵庫県内や全国に広まったともいわれています▼広報紙でも敬老の日に合わせ、毎年高齢者の方々を特集しています▼取材している中で感じたことは、皆さん好きなことを持ち、達者。特に、小堤山公園のボランティアをしている89歳の秋定さんの元気さには驚かされました。早朝とはいえ、記録的な猛暑が続いた今年8月の真夏の日差しの下、草取りだけでなく、倒れ掛かった木に持参したロープを掛けて、これ以上倒れないように処置をしてくださいました▼「わたしやあ、みんなの触れ合いで生かさせてもらってるだよ」という秋定さん。体力と心持ちに恐れ入りました▼8月20日の静岡新聞には、83歳で化粧品を開発して起業した女性社長の記事が掲載されていました▼いくつになっても、目標や楽しみを持って前に進む姿はとても輝かしく、私もそうありたいと思いました

ペンを置いてー編集幸記

